

ごあいさつ 12月といえば、クリスマス!! ツリーといえばもみの木ですね。木は国や文化を超えて、昔から人の営みに結びついているものです。日本書紀にもスサノオが「杉とクスノキは船に使える。ヒノキは宮殿を作るのに使える。マキは人民の奥津葉戸(オキツスタエ=棺桶)に使える。」と云ったと文献が残っている程、日本人にとっても木は生活の一部として取り込まれたものでした。今号では、長い間使用されて、不要になった木の廃材を活かした小倉流アイテムのご紹介をします。

三代目 小倉一弥

古い物を新しく蘇らせる! 小倉流リサイクルのカタチ

築100年はゆうに超えている稲葉様邸。玄関引き戸サッシが古くなり動きもぎこちなくなったので、新しい引き戸サッシに交換する工事をさせていただいたところから、新たな展開が訪れます。



その際、撤去して不要となった土台(どだい)と呼ばれる木材があります。たいていは処分しますが・・・(この時点ではこの木材は「栗」だと思い込んでいました。しかし、実は違う木材であることが発覚! 詳しくは右ページで紹介)

この家を見守ってきた木材で、更に後世に残るモノできないか!?

この土台という木材は100年以上この家の玄関を支えてきました。簡単に廃棄するのは、勿体ない!。なぜなら、この建物は稲葉様のご先祖様が築られました。四〜五代に渡った稲葉家の歴史をずっと見守ってきております。その間当初は木製だったのであろう引き戸が、時代の流れと共にアルミサッシ(ビフォー写真)に改修され、そして今回2回目の新しいアルミサッシ(アフター写真)に生まれ変わります。世代を超えて玄関を2回も改修する、こんなに長年大切に使用されているお宅もなかなかありません。そして100年前の新築工事といえば、当家の所有される山の木を伐採して建設地に搬入し、大がかりな機械もない時代で、その場で全て手加工したものを使用していました。現在のように電話一本で簡単に木材が調達できる時代ではありませんでした。稲葉家の歴史を見てきたこの土台を、新たな形で蘇らせて稲葉様にお渡しできたらと思いました。

100年前の手仕事が色濃く残る「土台」、まるで骨董品クラス!

土台の表面は凹凸だらけ。

当時は、斧(おの)や、このような大工道具(写真下)を使って丸太の丸い形を四角い角材に手作業で加工していたと思われます。

ちなみこの道具は紀元前から使われていたと言われていて、大工道具の化石とも呼ばれている木の表面を削るための道具「ちょうな」。

「ちょうな」。かんなのご先祖様。

懐かしいの、昔は、よお〜使ったわ!

現在の加工はこのような電動丸ノコで、誰でも真っ直ぐに仕上げられます

大倉長、十四年所有のちょうな▶

大倉長の小倉十四年

これからこの土台を使ってあるモノにリメイクしていきます!

開始早々、栗の木でなく、住宅木材としては珍しい木材、榿(かし)の木と判明!

く、栗の木じゃなかったんかー!!

土台の裏面には腐りもありました。他にも昔の釘が残ってる部分もあり、それらを除けて使える板材に選別しています。広島地方では榿の木は白い木目が多いですが、こちらは珍しく薄いピンク色。おそらく赤榿(あかがし)です。

まずは歯車のかたちのようなこの板を製作。これを組み合わせていきます。

裏には製作者名の焼き印を

実はティッシュ箱でした!
お施主様宅から出た木材100%使用

オグラの? 教えて三代目~!

①なんで最初、栗の木じゃと思ったん??

国産木材の中でも腐りにくい木材が栗。土台は雨や地面からの湿気には負けないように栗の木がよく使用されたとたんよ。榿の木も栗に似るとるけえ、栗じゃと思いついた。栗は腐りにくいけど硬い木材じゃけー、大工さんも加工が大変。栗の木は「栗みたいに根性曲がってるな」と昔の人は言うてたらしい曲がってる樹木、なので建材としては扱いにくく、最近ではほぼ使用されていません。

②榿(かし)の木ってどんな木?

ウチの大会長に聞いても住宅に榿の木を使うのは珍しいケースみたい。榿の木はいわゆる「どんぐりの木」。栗と一緒に腐りにくい硬い木材。でも乾燥させるのにも時間かかるからか、住宅には向かないだったんかもね。かなづちの柄(え)に使われたり、他には「薪の王様」とも言われてキャンプ場ではお馴染みの木なんよ。おそらく稲葉家には所有される山に立派な榿の木があったんじゃないか。



稲葉様にさっそく贈呈です!



稲葉様「おお、あの木材がこんな立派なティッシュ箱に生まれ変わったんか! 良いのを作ってくれて、ホンマ嬉しいわ。小倉の大工さんはこんな細かい仕事もできるんじやのお」

「裏板のどこかにどの木材で作ったと書いて、孫にも伝えていこうかのお(嬉)」

玄関サッシ交換中には、お施主様が栽培された甘いイチゴを大工と一緒にいただきました。



- いなば農園 (観光農園ではないので直売のみ)
- 住所: 三原市大和町上徳良3701
- 電話: 0847-33-0985
- イチゴの販売期間: 12月下旬~5月末

まとめ

冒頭でもふれたように日本は古来から木材と関りが深いと思っています。木は人間と同じようにそれぞれの個性があります。硬くてしっかりした物や、癖が出やすく曲ってしまう物、逆に真っすぐで癖が出にくい物など。家を建てる際には、それぞれの個性を活かした適材適所に合った木材を見つけて使用されてきました。お金を払えばいくらでも良い物は手に入る時代ですが、この度のような稲葉様にとって世界に一つしかない想い入れのある物を小倉ができる形で提供させていただきました。